

若者の力をミカタに！～学びと仕事をつなぐ図書館～

高橋 知香

長岡市立中央図書館

1. はじめに

長岡市では急速に進む人口減少を克服し、地方創生を実現するためのまちづくりが進められている。人口減少の問題については、特に進学や就職を機に関東圏に転出する20～24歳の若者が多くなっており、長岡市総合計画¹では「まちの存続をかけた最重要課題」と位置付けられている。人口減少に歯止めをかけるための戦略²では、将来を担う「若者」を地方創生の主役に据えており、今回のワークショップの課題でも「若者」に注目した。

ビジネスライブラリアン講習会では、事前課題や講義を通じて、全国の様々な事例・現状を調査した。人口減少・若者流出は、多くの地方都市で問題となっている。若者が地元の魅力を感じ、夢を持って前向きに取り組むことを応援するため、これから図書館にできることを考えた。講習で学んだこと、グループワークで助言いただいたことをもとに本事業を提案する。

2. 長岡市の概要

(1) 長岡市の現状と課題

長岡市は新潟県のほぼ中央（中越地方）に位置し、県内では新潟市に次いで第2位の人口を有する。現在の人口は約26万人³である。市の中央部には日本一の大河信濃川が貫流し、その両岸の肥沃な沖積平野に住宅地・商業地が広がっている。平成17年（2005）からの市町村合併で10の市町村と合併したことで、日本海・守門岳など自然環境に恵まれた広大な市域と、多様な地域資源を有するまちとなった。また米を中心とした農林水産業、高度なものづくり技術を持つ工業、県内第2の商圏を持つ商業と、バランスの取れた産業構造となっている。

長岡市の人口は平成7年（1995）をピークに、その後は減少が続いている。若者世代の社会減の理由としては、「職業」による転出が最も多い⁴。新潟県全体としても令和4年（2022）の人口は転出超過となり、その規模は全国で4番目に多い。市町村別では最も多い新潟市が754人、次いで長岡市が737人となった⁵。長岡市の総合戦略²でも「若者定着」は大きな柱のひとつとなっており、若年層の転出超過率抑制と、市内4大学・1高専・15専門学校卒業者の市内就職率を伸ばすことが課題となっている。

(2) 長岡市立中央図書館の現状と課題

長岡市立図書館は、大正7年（1918）に互尊文庫が開館し、現在は中央図書館と7館

の地域図書館がある。さらに2台の自動車文庫「米百俵号」、8か所の取次所（予約図書を受け取り、返却等が可能）により、合併地域も含め市内全域にサービスを行っている。また令和5年（2023）、互尊文庫が新たな地方創生の拠点「米百俵プレイス ミライエ長岡⁶」に移転する。同施設には図書館の他に、子どもラボ、若者ラボ、イノベーションサロン、コワーキングスペースなどが設けられる。大学と産業界の交流・連携にも重点が置かれており、学生や若者が起業しやすい環境が提供される。

長岡市立中央図書館のビジネス支援サービスは、平成25年度（2013）に本格的に始まり、市商業振興課・長岡商工会議所・公益財団法人にいがた産業創造機構の協力を得てセミナーを開催したが、ここ数年は開催していない。資料やパンフレット、オンラインデータベースの提供にとどまっているのが現状である。「ミライエ長岡」のオープン控え、今後相乗効果を生んでいくためにも「若者」に着目して中央図書館のビジネス支援を考えたい。

3. 若者に向けた事業の提案

令和3年（2021）、ながおか・若者・しごと機構が大学・高専・専門学校を卒業する学生に対して行った調査⁷では、「長岡市に住み続けたいと思いますか」という設問に対し、「ずっと住み続けたい」「一度市外へ出ても、長岡市に戻ってきて住みたい」はそれぞれ1割強にとどまり、「住みたくない」を下回っている。住み続けたくない理由としては、「冬の気候が厳しいから」が最も多く、「違う場所で生活してみたいから」「買い物する場、遊ぶ場所などが少ないから」「志望企業・業種がないから」が続く。また前年に同じ調査⁸が高校2年生を対象に行われている。高校生は地元出身者が多いこともあるが、同じ設問で居住に前向きな人は全体の46.2%を占めている。またいずれの調査でも「わからない」と答えた割合が約半数と多い。将来に向けて世界が広がるこの年代に、判断材料となる地域の魅力や地元企業の情報を知ってもらうことは重要である。

また図書館が、学生の学びの成果を発表する場のひとつになることができればよい。各学校の専門分野を知ることや学生起業家の経験を伝えることは、さらに下の世代に夢を与える。

(1) 学生向けセミナーの開催

「長岡ではたらく！学生のための仕事セミナー」

連携先：産業支援課、新潟県スタートアップ拠点 CLIP 長岡、市内大学・高専など
内容：長岡市で働く様々な業種の人が講師となり、自分の仕事の魅力を語ってもらうセミナーを実施する。工業都市長岡のものづくりに携わる人や、身近な地元企業で働く人、年齢の近い学生起業家に体験を語ってもらう。併せて図書館活用講座を行い、図書館ホームページから利用できるサービスや、オンラインデータベースを

PRしたい。

(2) 学生が講師となるセミナーの開催

例：「〇〇大生が先生！理科実験教室」

「親子で挑戦！ロボット工作教室」

連携先：市内大学・高専

内容：市内4大学1高専の学生が講師となり、小中学生に向けて専門分野を生かした講座を開催する。各学校で学べる分野の魅力をj知ることj、市内での進学にも興味を持ってもらえるとよい。

(3) ビジネスコンテストの成果展示

連携先：各ビジネスコンテスト主催者

内容：ビジネスコンテストの成果を図書館で展示し、広く一般の利用者や小中高校生・保護者にも学生のユニークなアイデアを知ってもらう。また各主催者が行っているセミナー等に出向いて図書館活用講座を行い、プラン作成に図書館のオンラインデータベースやレファレンスブックを役立ててもらいたい。さらに市内では高専以外でまだ応募の少ない「高校生ビジネスプラン・グランプリ」へのエントリーにもつなげていきたい。

県内・市内では、学生を対象とした様々なビジネスコンテスト・デジタルコンテストが開催されており、コンテストを通じて課題解決に取り組む学生も多い。例えば、長岡高専のアントレプレナークラブや、他大学からの参加者もいる長岡大学の夏季集中講座「起業家塾」は、地域企業の課題解決や地域社会への貢献を目標に、県内外のビジネスコンテストにも積極的に応募している。

令和4年度（2022）に開催された主なコンテストは以下の通りである。いずれも市内の学生たちが活躍している。

・ビジネスアイデアコンテスト in ナガオカ（主催：新潟県スタートアップ拠点 CLIP 長岡）長岡の地域の魅力を活かしたビジネスアイデア ⁹
・Matching HUB Nagaoka 2022（主催：Matching HUB Nagaoka 実行委員会）企業課題と4大学1高専のシーズをマッチングする展示会で、2つのビジネスコンテスト（M-BIP、長岡未来デザインコンテスト）を併催 ¹⁰
・米百俵デジタルコンテスト2022（主催：ながおか・若者・しごと機構）子どもの遊び、学び、暮らしを豊かにするデジタルプロダクトのアイデア ¹¹

・『えちご想発×TECH』ICT ビジネスアイデアコンテスト in 新潟（主催：NPO 法人にいがた地域情報化推進協議会）起業家甲子園の信越地区（連携）大会¹²

(4) 若者支援相談窓口の設置

連携先：若者サポートステーション

内容：働くことに不安を抱える若者を応援するため、若者サポートステーション¹³（サポステ）と連携する。サポステでは、コミュニケーションが苦手な人や就職活動に自信をなくした人の相談・支援を行っている。プログラムのひとつであるジョブトレーニングは、若者が“働く”イメージを持てるよう、様々な企業・団体に職場実習を行っており、図書館でも本の棚への返却作業に参加している若者がいる。気軽に足を運べる図書館にサポステの出張相談窓口を設け、支援を必要としている人と繋げられないだろうか。

(5) 館内コーナーの強化と学生の利便性向上

①「若者しごと応援コーナー」の拡充

現在、ヤングアダルトコーナー内に「若者しごと応援コーナー」を設置している。職業・就職に関する本やDVD、仕事が舞台の小説、また長岡市内企業のパンフレットを提供しているが、当館では閲覧室と自習室が別のフロアにあり、学生は自習室のみの利用も多い。自習室前にもミニYAコーナーを設置しているが、これを強化して自習室利用者にも利用しやすいコーナーにしたい。

②プロスポーツコーナーの設置

広島市立図書館の「広島3大プロコーナー」をはじめ、全国の図書館で行われているプロスポーツコーナーを設置したい。長岡市は男子プロバスケットボール B. LEAGUE 所属の新潟アルビレックス BB のホームタウンとなっており、「バスケットボールを核としたスポーツによる市民協働のまちづくり¹⁴」を目指している。地域情報のひとつとして図書館でもチームを応援するコーナーを設置し、地元に着きかけにしてほしい。

そのほかに、郊外に立地する4大学1高専の学生が図書館を利用しやすくするために考えられるリニューアル案として、以下のような点がある。

- ・HP上にも「若者しごと応援コーナー」を作成し、役立つ情報を集約
- ・学校で予約図書の受け取り、返却ができる巡回便の運行
- ・不足している自習スペースの拡充

4. おわりに

2023年3月、残念ながら打ち上げ失敗となってしまった新型H3ロケットに、長岡高専発のスタートアップ企業「株式会社 IntegrAI（インテグライ）¹⁵」が技術面で関わっている。インテグライは高専教授とモンゴルからの留学生2名によって設立され、AIカメラで計器類を監視するシステムを開発。H3ロケットのエンジンに使用する燃料の格納庫に設置された。このシステムは市内外の企業に導入され、現場のニーズに応じている。コロナ禍では長岡市のワクチン保存用冷凍庫の温度管理にも活用された。

起業マインドに溢れる学生の活躍は、子どもたちに夢を与える。図書館が様々な職業や進路を考えるきっかけの場となることができればよい。今回の講習では、様々な角度から図書館のビジネス支援について学んだ。今後の業務に活かし、ひとつずつ、新たなビジネス支援を実践していきたい。

1 長岡市総合計画 平成28年度～平成37年度

<https://www.city.nagaoka.niigata.jp/shisei/cate01/sougou/file/sougou-01.pdf>

2 長岡市まち・ひと・しごと創生総合戦略／人口ビジョン～長岡リジュベネーション（長岡若返り戦略）～

<https://www.city.nagaoka.niigata.jp/shisei/cate11/senryaku/file/rejuvenation-01.pdf>

3 長岡市HP 人口と世帯数

<https://www.city.nagaoka.niigata.jp/syukai/jinkou/jinkou.html>

4 前出2 長岡市まち・ひと・しごと創生総合戦略 p30、41

5 住民基本台帳人口移動報告2022年（令和4年）結果 第1表 男女別都道府県内移動者数、他都道府県からの転入者数及び他都道府県への転出者数－全国、都道府県、3大都市圏（東京圏、名古屋圏、大阪圏）、21大都市（2022年）

<https://www.stat.go.jp/data/idou/2022np/jissu/zuhyou/hy01.xlsx>

6 米百俵プレイス ミライエ長岡HP

<https://miraie-nagaoka.jp/>

7 「長岡市に暮らす若者の意識調査」令和3年度 報告書 p43、47 ながおか・若者・しごと機構

<https://n-wakamonokikou.net/src/67296203/R3%E8%AA%BF%E6%9F%BB%E5%A0%B1%E5%91%8A%E6%9B%B8.pdf?v=1657506924185>

8 令和2年度 長岡市に暮らす若者の意識調査 p28 ながおか・若者・しごと機構

<https://n-wakamonokikou.net/src/67296099/R2%E8%AA%BF%E6%9F%BB%E5%A0%B1%E5%91%8A%E6%9B%B8.pdf?v=1657506924185>

9 ビジネスアイデアコンテスト in ナガオカ

<https://www.kigyousien.or.jp/news/event/end-event/cssidea2022/>

10 Matching HUB Nagaoka 2022

<https://matching-hub.nadec-base.jp/>

11 米百俵デジタルコンテスト2022

<https://kome100dc.jp/>

12 『えちご想発×TECH』ICTビジネスアイデアコンテスト in 新潟

<http://www.ict-echigo.jp/news/public/detail/ID/192/td/>

13 長岡地域若者サポートステーションHP

<https://www.nagaoka-wsc.org/>

14 シティホールプラザ アオーレ長岡パンフレット p15

<https://www.city.nagaoka.niigata.jp/shisei/cate05/ao-re/file/pamph2022a.pdf>

15 株式会社 IntegrAI (インテグライ) HP

<https://integrai.jp/home#work>